

前奏 黙想	祈 禱
讃美歌 63 いざやともよ	讃美歌 494 わが行くみち
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 創世記 21:14~18	黙 禱
ローマの信徒への手紙 4:17	主の祈り 564
讃美歌 434 みかみを父と	頌 栄 540 みめぐみあふるる
説 教 『ダメ人間の信仰』	祝 禱 後 奏

「[わたしはあなたを多くの民の父と定めた]と書いてある通り。死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となった(㊦4:17)」。

アブラハムが信仰の源流だとは知っているが、信仰による(4:16)「わたしたちの父となる」ほどの人物かなあ。主に忠実なのは結構だが、側女ハガルと息子イシュマエルに対する仕打ち(創世 21:14)は随分酷いじゃないか。いくら恐妻家とはいえ(21:10)、悩んだ末に(21:11)それはないだろう、と思う。

ほとんど着の身着のまま荒野に放逐されればどうなるか(21:14)、アブラハムは分かっていたはずだ。「革袋の水が無くなると、彼女は子供を一本の灌木の下に寝かせ、[わたしは子供が死ぬのを見るのは忍びない]と言って、矢の届くほど離れ、子供の方を向いて座り込んだ。彼女は子供の方を向いて座ると、声をあげて泣いた(21:15~16)」。念入りに描写された胸が締めつけられる映像的なシーン。この場面、象徴的にアブラハムとサラの、すなわち人間の底にある荒涼を表しているのかもしれない。

元はと言えば妻のサラが側女に差し出したハガル(16:3)。ところがサラは自分に息子が生まれるや、「あの女とあの子を追い出してください。あの女の息子は、わたしの子イサクと同じ跡継ぎとなるべきではありません(21:10)」とアブラハムに迫る。彼らの名を出さないところも、冷やかさを覚える。

「サラは、アブラハムを主人と呼んで、彼に服従した。あなたがたも善を行い、また何事も恐れなければならぬ、サラの娘となる(Ⅰペト 3:6)」。「何事も恐れぬサラの娘」とは、創世記をよく読むと皮肉に聞こえるが、ここは聖女としてのサラ。聖書はアブラハムやサラ、偉人たちの暗い背面を隠さない。

さて気がかりなのは、荒野のハガルとイシュマエルだ(創世 21:16)。「神は子供の泣き声を聞かれ、天から神の御使いがハガルに呼びかけて言った。[ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神は子供の泣き声を聞かれた] (21:17)」。神が聞かれたのは、「声をあげて泣く(21:16)」母の嘆きではなく、水が切れて灌木の下に横たわる死にそうな子供(21:15)の「泣き声」であった。祈りにもならない微かな子供の泣き声。アブラハムとサラが追い出したその子イシュマエルも、神の民であった。

「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神を、アブラハムは信じ、その御前でわたしたちの父となった(㊦4:17)」。アブラハムが「わたしたちの父」となったのは人の前ではない。つまり人格が高潔だから「父とされた」わけではない。「神の前」だからこそアブラハムは民の「父」と成りえた。アブラハムはダメ男だが「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神」を信じた。端的に言えば「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた(4:3)」。ここがキモだ。信仰の義は私たちにとっても「存在しないものを存在させる」。永遠の命を存在させる。

「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神」。死にかけていた荒野の幼子イシュマエルに命を与え、可能性ゼロでも未来を創造していく神(創世 21:18)。私たちはこの神に祈る。言葉にならない微かな声でさえ聞き届けられる(21:17)。それほどに私たちの隅々が顧みられている。

世界には聖人もいて、人々はそんな偉人を仰ぎ見る。数多の手柄を放り出すのはさぞや大変だろう。私の手柄は僅かだが相当な拘束力。だが然りとされるのは、人の前ではなく、神の前で(㊦4:17)。

信じるは分るよりも深い 分るは理解の範囲だから 信じるは無責任 責任範囲を超えているから
宣教で生まれた受洗者の 苦しみの責任はキリストにある 十字架で死に人を救おうとされた方に

10/11(水) エステル会、10/14(土) 1:30~3:00 聖書研究会、10/18(水) 1:00~3:00 教会カフェ。
10/21(土) 1:30~3:30 メディカル・カフェ。牧師の動き:10/12(木) 午後初めてのお客さん来訪。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。